

令和2年1月15日（水）

令和元年度第4回多摩市みどりと環境審議会議事録

午後2時開会

○環境政策課長     では、定刻になりましたので、令和元年度第4回多摩市みどりと環境審議会を開催いたします。

私は、本審議会の事務局を務めさせていただいております、環境部環境政策課課長のNでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、進行のほうを会長、よろしくお願いいたします。

○会長     皆さん、あけましておめでとうございます。新年どうもよろしくお願いいたします。それでは、第4回の審議会を、これから開催いたしたいと思います。

今日のご都合のつかない委員が、A委員、B委員、C委員、D委員、E委員、F委員と、6名の皆さんの都合がつかないということでした。ここに11名おりますので、過半数は超えておりますので、これで開催をいたします。

それではまず、事務局から次第と配付資料の確認をお願いいたします。

○環境政策課長     では、次第に基づきまして、本日の資料と、本日の審議日程のほうを説明させていただきます。

まず、資料のほうです。次第が1枚ございます。その次に、当日の本日配付させていただいております資料として、資料5、施策方針H、施策評価、総合評価案修正版といわれるもので、A4の2枚物になっております。それから参考というところで、令和元年度市民認証依頼文等写、これはA4、1枚物でございます。それから、参考資料としてカラー刷りのチラシになります、多摩エコ・フェスタ2020のチラシになります。こちらが、当日配付資料となります。

そして、事前に配付させていただいております資料といたしまして、資料1、令和元年度第3回みどりと環境審議会議事録案。そして資料2、施策方針H、施策評価、総合評価の案。資料3、外部評価手法に対する意見書案。そして資料4、新たな環境問題の市から審議会への依頼についての報告案について、こちらとなります。また、第4回審議会の事前配付資料としてお送りいたしました、資料2から資料4につきましては、ご多忙中、ご確認をいただきましてまことにありがとうございました。

お手元の資料等に過不足等はございませんでしょうか。

なければ、あと本日は、次第4、その他のところで少しお時間をいただきまして、公園緑地課から1件、審議会の皆様のご意見を伺いたい案件についてご報告がございますので、あらかじめご承知いただければと思います。

本日の次第のほうなのですが、この後、前回の審議会の議事録について、そしてその次に3番目として、①平成30年度多摩市の環境の取り組みに対する市民認証外部評価について、それから②外部評価の手法について、そして③新たな環境問題について、そして今説明をいたしました、その他というところが、今日の予定となっております。どうぞ、よろしく願いいたします。

では会長、よろしくお願いします。

○会長　それでは、議事に従っていきたいと思います。事前に配付している資料ですが、資料1、前回、第3回の審議会の議事録の詳細なものですが、これをここで確認をして確定したいということですが、何かお気づきの点等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。もし、非常に細かいところで何か気がつきましたら、その点は、修正はさせていただきますが、それで確定ということにいたします。ありがとうございます。

○環境政策課長　では、議事録のほうはこれで決定いただきましたので、市のホームページや行政資料室などで公開をさせていただきます。

○会長　それでは、今日の主要な議題に移ります。

平成30年度の多摩市の環境取り組みに対する市民認証外部評価についての中の、施策方針Hというところですね。エネルギーの有効利用という部分でございます。ここはもう既に第1回、第2回、そして第3回で議論を続けてきました。今回は、事務局から既に事前配付していただきました資料2という、施策方針の総合評価案、これと今日、お配りしてあります資料5、一部、皆さんから事前にいただいた意見を反映させたものです。これに基づいて、これから議論をしていきたいかと思います。それでは、まず事務局から、ご説明をお願いします。

○環境政策課長　それでは、ご説明をさせていただきます。

まず、今後の流れですが、事前にいただいたご指摘の部分と、本日の審議会で出たご意見を合わせまして、次回の第5回審議会の事前資料としてお示しいたします。そして、第5回審議会の冒頭で決定していただき、会長から市長宛に答申をお願いしたいと考えておりますので、ご意見等は、できるだけ本審議会でお出しいただくよう、よろしく願いいたします。

事前にお送りいたしました資料2、施策方針H、施策評価、総合評価案についてですけれども、1点、事前意見を頂戴しております。場所は、資料2の2ページ目、施策25、再生可能エネルギーの推進の取り組み度合いのところです。2段落目、2行目にあります、卒FIT問題、この部分ですけれども、卒FIT問題、これはあまり一般的な言葉ではないということで、補足説明があったほうがよいのではないかとというご指摘をいただきました。本日、お配りしている資料5は、いただいたご意見を反映いたしまして修正したものととなります。

説明は、以上です。

○会長     ありがとうございます。

今日配付されている資料5の2ページ目ですね。1枚めくっていただいて2ページ目の真ん中あたりです。太字で下線が引いてある部分、これが事前にお送りした資料との変更点になりますので、そこは後でご確認いただければと思います。

それでは、早速、修正後の資料5というほうを中心に、これから中身の確認をしていきたいと思います。

まず、施策24です。省エネルギーの推進というところです。それぞれ、評価項目が3つありまして、それぞれ既に皆さんからいただいた評価の平均点というのが、そこに書かれています。評価コメントというのは、それぞれいただいた意見を事務局で整理してもらったものです。ここは、事前に配付したものと内容的には同じですので、一度、目を通していただいているかと思いますが、いかがでしょうか。必要性、取り組み度合い、効果、それぞれどこからでも結構ですが、何か、ここはこういうふうに修文したらいいのではないかとか、これを足したらいいのではないかとというようなご意見がありましたら、この場でいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。点数そのものはもうこれで、今さら動かせないというところがありますので、この点でいきたいとは思いますが、評価コメントのほうは、ここでまだ修正することはできますので。いかがでしょうか。少し見ていただいて。

よろしいですか。よさそうですね。そうしたらこれで、この審議会としてはこういうコメントということにいたします。

続いて、1枚めくっていただきまして、施策25、再生可能エネルギーの推進というところです。取り組み項目は、実は2つありまして、再生可能エネルギーの推進と、ごみ焼却の余熱利用の推進という、2点です。それぞれ、必要性、取り組み度合い、効果について、点数はこうになっております。それから、評価コメントのところは事務局が整理してくださって、このような形で今は書かれています。先ほど説明がありましたが、事前にお送りし

た資料との変更点は、取り組み度合いのところの真ん中辺ですね。下線の引いてあるところになります。これも見ていただいて、お気づきのところなどありましたら、ご指摘いただければと思います。

そろそろよろしいでしょうか。それではこのコメントですけれど、こんな形でいかがでしょうか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは、これで審議会のコメントということにいたします。

続いて3ページ目です。総合評価というところで、それぞれの施策の評価項目ごとの皆さんからいただいた点数を平均したものを、さらに全体で平均したものがこのような形になっていまして、これからしますと、総合評価は基準でいくとB、目標に対して進展したという評価が総合評価ということになります。ある意味、これは機械的にこういった値が出るということです。重要なのは、総合評価コメントというところです。ここは、全体の総合的な評価のコメントの部分ですので、この審議会としての総意ということになりますので、ここは少し注意して見ていきたいと思いますので、ここも皆さん、お時間をとっていただいて少し確認をしていただければと思います。その後で少し必要があれば、ディスカッションいたします。よろしいですかね。このような総合評価のコメントとして、施策の24と25を合わせた全体になりますが、こういう形で市長に答申するというところでよろしいですか。ありがとうございます。

意見をどうぞ。

○G委員 総合コメントの下から2行目なのですが、省エネルギー、再生エネルギーってありますが、これは再生可能エネルギーでなくていいのですか。私は、この辺は自分の専門ではないのでこの言葉が明確ではないのですが、再生エネルギーでいいのですか。

○環境政策課長 こちらは再生可能エネルギーとなりますので、済みません、こちらのほうも、可能というところをつけ加えさせていただきたいと思います。

○職務代理 25のタイトルそのものが、再生可能エネルギーに。

○会長 そうですね。どうもありがとうございます。重要なお指摘。

そのほかはどうでしょうか。いいでしょうか。それでは、これで総合評価コメントはこのような形でということにいたします。それで、この施策方針Hに関する審議は、ひとまず終了ということになります。

続いて、今度は次第の3番目ですが、外部評価の手法について。これも皆さんと、何回かにわたりご議論してまいりました。今回は、事務局から事前にお送りいただいた資料3とい

うのがあります。事前にお送りしましたものですが、外部評価の手法に関する意見書（案）というものです。これについては、まず事務局からご説明をお願いいたします。

○環境政策課長　それでは、説明をさせていただきます。

②外部評価の手法について。これについては、特に事前のご意見・ご質問等はございませんでした。今後の流れといたしましては、本日の審議会で出たご意見等を反映させたものを、次回の第5回審議会の事前資料としてお示しいたします。そして、第5回審議会の冒頭で決定していただき、会長から市長宛に答申をお願いしたいと考えておりますので、ご意見等は、できるだけ本審議会でお出しいただくよう、よろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○会長　ありがとうございます。この意見書ですが、事前配付されたものですが、この内容について見ていきたいと思えます。既に見ていただいて、目を通してはいただいているわけですけど、外部評価の手法については大分いろんなご意見をいただきまして、事務局にこのような形で整理をしていただきました。

まず、審議会等の意見が最初のほうにあって、改善案等というのは、その下にまとめるという形で整理されています。最初は、外部評価手法についてそのもの。それからめくっていただいて、重点評価手法についてというところですね。そして3番目は市民認証、外部評価へのフィードバックについて、この3つがございます。

さまざまなご検討をいただいて、それぞれいろんなご意見がありましたので、事務局にお願いして、ある意味、肯定的なご意見、それから否定的なご意見というような形で、必ずしもこれは適当な表現ではないのですが、便宜的にこのように分けて表現をしてあります。2ページ目のところが、特に定量化、総合評価についてのところで、ここは非常にご意見がたくさんありました。これについても、一応、肯定的・否定的と分けてありますが、両方にかぶるようなご意見も多いもので、便宜的なものと考えてください。特にここですと、枠で囲ってあるのは、審議会での議論で追加の記載をしたというところになります。改善案のところも、同じですね。3ページ目のところです。改善案等というところに出ております。一応、順番に見ていきましょうか。

評価手法、1ページ目のところ、それぞれ特に改善案等というところで、こんな形で整理をしたわけですが、いかがでしょうか。網羅性の担保と、重点評価対象施策方針以外の取り扱い、それから評価基準についてということで、それぞれコメントがありますが、こういう形でよろしいですか、ここは。では、ここはこういう形にします。

それから、2 ページ目です。重点評価手法のところですか。ここもご意見をいろいろ受けて、改善案というのは、3 ページ目の上のほうに書いてあります。定量化について、それから総合評価・総合評価コメントについて、それから評価項目の必要性という部分について、このような形で改善案等というのを提言するという形になっています。この辺も見てください。いかがでしょうか。よろしいですか。そうしたら、ここもこういう形で改善案等を提言するという事です。

○職務代理 済みません。改善案の中で、評価項目の必要性の上から3行目。「評点化せずコメント飲みに留め」のところを平仮名の「の」にして。

○会長 ありがとうございます。ワープロの変換ミスがあるところは、またほかに見つかったらそこは修正します。ほかは、よろしいでしょうか。

そうしたら最後ですが、市民認証、外部評価へのフィードバックについてということで、それぞれの意見と、その改善案等というところで、こういう形の整理をしてあります。ここも少し見ていただいて。よろしいでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

その次、4 ページ目をごらんください。年次報告書についてです。これは少し形式的な部分というか、体裁にかかわるところも結構重要で、いろいろご意見をいただきました。改善提案等というところで、①から④まであります。こんなような形で提案・提言するというのですか、コメントですが、提案をするという形ですがいかがでしょうか。ここは、よろしいですかね。年次報告書そのものなのですが。ありがとうございます。

続いて、審議会の回数についてです。これも、いろいろなご意見をいただきまして、審議会の意見等というところ、そこの一番下のその他のところでいいのですかね。いろんなご意見、その他もいただいていますね。こんな整理の仕方ではよろしいでしょうか。来年度は、また少し今年とは違った形で開催されると聞いておりますので、なかなか思いどおりにいかない部分もあるかとは思いますが。では、ここの回数については、このような形で。

それから最後です。5 ページ目です。資料配布の方法についてです。ペーパーレス等への対応とか、いろいろご意見をいただいています。こういうご意見を事務局に対して、審議会として提案というか意見を述べるという形になります。よろしいですかね。ここは、このような形でまとめて意見を述べるということにして、全体を通して、このような形で外部評価手法に対する意見書ということで、意見書を作成するということにいたします。

どうぞ。

○H委員 細かいことなのですが、1 ページ目の外部評価手法についてという箱のす

ぐ下、3行目なのですが、「時期期計画」と「期」が2つ重なっているのです。

○会長     ありがとうございます。1つ取ってください。そのほかは、よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、これで。また何か気がついたら、形式的な部分でしたらば修正をいたします。ありがとうございます。

続いてです。もう一つ大きな課題となっておりました、新たな環境問題についてという部分です。こちらは前回、第3回の審議会で、具体的な審議を大分突っ込んでいたしました。今回、事務局から事前配付していただいた、新たな環境問題に対する意見書というやつですね。資料4です。見ていただいて、これについて、これからディスカッションしたいと思います。まずは事務局から、ご説明をお願いいたします。

○環境政策課長     それでは、説明をさせていただきます。

③番、新たな環境問題について。こちらについても、特に事前のご意見・ご質問等はございませんでした。こちらも今後の流れといたしましては、②外部評価の手法についてと同様、本日の審議会でいただきましたご意見等を反映させたものを、次回の第5回審議会の事前資料としてお示ししますので、第5回審議会の冒頭で決定していただき、会長から市長宛への答申をお願いしたいと考えております。こちらもご意見等は、できるだけ本審議会でお出しいただくよう、よろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○会長     ありがとうございます。それではこの資料4ですが、事務局でこのような形で整理をしていただきました。これは、次期みどりと環境基本計画の改定に向けた検討が、来年度、始まると聞いております。それに向けた前段階という位置づけにもなっておりまして、特に重要テーマだろうということで、廃プラスチック問題を取り上げました。この中で情報発信、それから川ごみ対策の推進、発生抑制の啓発という3つの柱を挙げて、まとめのところでこういう形に、SDGsの考え方も重要だということで、それも取り上げています。

それから、プラスチック対策というだけではなくて、エネルギー消費の問題、それから生物多様性の損失の問題、それから気候変動による気象災害、そういった問題、いろいろなものが環境問題というのは、影響し合って複雑に絡み合っているということがまとめの最初のところに書いてありまして、環境問題の解決というのは、多角的に捉える必要がある。総合的に考えて、現状に応じた対策が求められているという整理になっています。

その後で、まさにSDGsの考え方が必要であるということで、世界や企業では既にそうした取り組みが加速している中、民間企業との連携も視野に入れるなど、行政も早急にこの

考え方に立った実効性のある具体的な取り組みが必要であると、そういう整理の仕方になっております。

2 ページ目以降は、前回の第 3 回での委員の皆さんのそれぞれの個別の意見が、そこに列挙されています。それを整理した形が、1 ページ目ということになります。これについて、何かお気づきの点がありましたら、お願いします。新たな環境問題というところです。これは来年度に向けての、ある意味、今年度の審議会からの宿題ということになりますかね。引き継ぎ事項ということになると思いますけれど、いかがでしょうか。どうぞ。

○H委員 私は前回もあまり発言しなくて、この廃プラスチックの問題については、実はすごく発言しにくい思いがして。なぜかという、問題が大き過ぎるのですよ。はっきり言って、一自治体や個人で対応できる範囲の対策というのは、限界があると思っています。プラスチックが問題だというのであれば、やはりもっと大きな機関、はっきり言って国が、本格的に腰を入れて乗り出さない限り、根本的な解決にはつながらないと思います。暴論、極論でありますけれども、プラスチックが環境に問題だというならば、プラスチックの使用を禁止すればいい話です。

あるいは、プラスチックがなぜこんなにはびこるかという、ものすごく安価で便利であるからであるに違いないと思います。であれば、製造コストを高くする。非常に高価なものにする。そうすれば、使用はおのずから限られてくるであろう。あるいは、対抗するガラス容器であるとか、金属容器であるとか、そういったものが相対的に使われるようになってきて、廃プラスチックの問題はなくなると思いますが、そういう動きには全くなっていない。

これはやはり国会議員であるとか政府であるとか、そういった政策にかかわる人たちが政治の争点になりにくいということを盾にして、本格的に取り組まないことが原因になっているに違いないと私は思っておりますけれども。ということは強いていえば、有権者である投票権者である市民にも責任がある。そういったものを政治の争点にしようとしないう市民にも、責任があるということが言えると思います。

ですから、国レベルで対応して、本気で対応してもらうためには、有権者・市民全体が、廃プラスチック問題を国のもっと優先した争点にして持っていって、そういう政治家に登場してもらうという気持ちを持たなければ、根本的な解決には至らないと思います。市民にできる、我々がいつもこうやって議論して問題にしているような、ストローを減らそうとか、レジ袋を減らそうとかいうレベルでは、到底この問題は解決していかない、それだけの大きな巨大な問題であると思っております。ですから、こういった審議会ですることには非常



に限りがあるなというむなしさ、もどかしさから、なかなか発言しにくかったというところ  
です。

では、具体的にどうすればいいのかというと、今、言いましたような選挙にどうつなげて  
いくかということしか思いつかないのであって、ここですぐに何ができるというふうな提  
案ができるということではないので、非常に発言しにくかったというふうに思っておりま  
すが、とにかく本気で解決につなげるには、もっと大きなレベルで一步を踏み出す必要があ  
るというふうに思っています。

以上です。

○会長     ありがとうございます。誰かありますか、コメントは。どうぞ。

○環境政策課長     今、H委員がおっしゃったとおり、非常に大きな問題で、我々市民、そ  
れから一自治体として何ができるのかというところはございますけれども、これはプラス  
チック問題に限らず、今起きている気候変動の問題についても同じことが言えると思うの  
です。私たちができる力というのは、個人個人はちっぽけかもしれませんが、そこか  
ら一つ一つ積み上げていかなければ、なかなか大きなものにはならない。そのために今回、  
廃プラスチックをテーマに、こういったご意見をいただいたところですけども、いただい  
たご意見の大きな枠組みの中に、情報発信というのがございます。

市役所としては、この情報発信や、皆さんに今起きている事実といったものを正しく、そ  
れから迅速にといったところにポイントを絞って、今、まさに気候変動については、報道と  
かで、いろんな先生方によると10年が分岐点だと。10年たったときに今の状態が、このま  
ま継続していくと、もう地球は後戻りできない。まさに今ここで取り組まなければいけない  
ところ。ただやはり、国が動かないといったところもございますけれども、それは、私たち  
市民が声を挙げていくというところからしても、情報発信を市役所から正確に伝えること  
によって、この危機を感じる機運醸成をもっと高めていくことが大事なのかなというところ  
で、今回の審議会のご意見については、とても重く受けとめております。

この辺をきちんと受けとめた中で、次期基本計画の中に生かして、さらにこの思いを市民  
とともに盛り上げていって、プラスチック問題にしても、気候変動の問題にしても、できる  
だけ解決に導いていくといった方向に全員で進んでいきたいと考えております。少々答え  
になっていないかもしれませんが、市役所の思いとすると、そういうところが今はご  
ざいます。

○会長     ありがとうございます。なかなか投票行動までは難しいかと思うのですけれど、

ここの中で情報発信の中で、市民もその情報にアンテナを張っておくということも重要であるという表現をしまして、市としては、最新で正しい、わかりやすい情報の発信というのが、市としての役割であると考えて、そういう位置づけになっています。なかなか、確かに難しい問題です。

もう一点、座長のほうからコメントをするのも少しおかしい部分はあるのですが、最後のまとめのところの下から3行目あたりから、SDGsについて言及しておりまして、これは実は多摩市も、SDGsを意識された行政のいろんな取り組みの整理をされているようなのですが、まだまだ実質が伴っていない部分があるようです。

そういう意味でこれは重要ではあるのですが、その中で、民間企業との連携も視野に入れるなどというふうに入っているのですが、民間企業だけに限らず、行政以外のいろいろなステークホルダーですね。民間企業は重要なステークホルダーですが、それ以外のいろいろな市民団体とか、NPOとか、ボランティア団体も市民団体の1つかもしれませんが、そういうもう少し広い、さまざまなステークホルダーとの連携というのも視野に入れるべきかなと感じたのですが、皆さん、もしそういう方向性でよければ、そのような形で事務局に検討をお願いしようと思うのですが、いかがでしょうか。どうぞ。

○I委員　ありがとうございます。先ほど、H委員がくしくもおっしゃったように、もどかしさを感じる。もちろんそうでした。だけれどもこの審議会は、今、我々が何かを発信していかないと、例えば10年後、20年後に世界が大きく変わったときに、あのときの審議会は何をしていたのかといった話になるので、ここで私自身が皆さんと意見を共有したいと思っているのは、世界で一体何が起きているのかということを知る、住民の方々に知っていただく。そして、周りの人と話してもらいたい。

それから、そういったことを発信する。さまざまな企業、ステークホルダーは住民もそうですよ。そういった方々、全ての方々にこのことを知っていただき、それから、引いては政治家のほうの耳に入って、これは動かなければいけないというそういった一つのレバレッジの、そういった発信をこの審議会では、私は強くすべきだと思っていますし、ここの数日間といいますか、この1カ月くらいで、市長さんが必死になってこのことをやっと公におっしゃり始めたので、私は少し安心していて。特にやはりこの審議会というのは、世界で今何が起きているか。例えば、オーストラリアの火災で、燃えたのが北海道と同じぐらいの地域が燃えてしまったと。あるいは今、東京のほうでも麻布とか、あるいは横浜のほうですか。水道管がもう耐久年数で水浸しになったとか、さまざまなことがいわゆる気候変動から起

きてきて、もう満タンになって水があふれたらってなってから、初めてみんながびっくりするということ。それって今、予測できるのではないかと。

我々がすべきことは小さなことかもしれないけれども、発信することの大事さというのは絶対にあるに決まっているし、そこをもどかしさというよりも、もう2歩ですか、3歩でも進んで発信をする。みんなで話し合おうよといったことを審議会として、この表現の中に入れていただきたいなと思っています。

○会長 貴重なご意見をありがとうございます。情報発信というところで書き込んではいのですが、もう少し強調した形でという。そして、最後の世界の状況を踏まえてというのも重要だと思います。まとめのところでも、少しそういう表現が少しあるのですけれども。やはりさまざまなステークホルダーが主体的にかかわるべきというふうに個人的には思いますけれど、そういう方向性を、この審議会として提言するっていうのはいかがでしょうかね。民間企業も、その一つだと思うのですけれど。

よろしいですか、そういう形で。ありがとうございます。どういう表現にするかは事務局と相談しますが、民間企業を含め、さまざまなステークホルダー、市民団体とか、そういうところとの連携を視野に入れた取り組みっていうのは重要だという、そういうニュアンスの形で、まとめをつくっていければというふうに思います。ありがとうございました。では、その方向で少しまた事務局と調整をして、最終版を考えたいと思います。

○J委員 よろしいですか。

○会長 どうぞ。

○J委員 第3回のときに意見を言いそびれたことになるのですが、廃プラスチックに関する問題で、今はいろいろと世界でいろいろと動いていると思うのですが、例えば、プラスチックにかわるものに、例えばストローをプラスチックではなくて紙製にするとか、そういうような動きというのが出てきていますけれど、そういうときに、すごく気をつけないといけないなというふうに最近思うことが、では紙にかえたらそれでいいのかというと、紙はやはりそもそも植物由来のものであって、その植物はどこで生産されたものが使われるのかという話になってきて、結構、1つの問題を解決したつもりになっていて、実は新たな問題を生み出すことっていうのもあり得ると思うので、やはり市としても十分、何か安心しないで、ちゃんと自分たちがやっていることが本来の目的に沿っているかどうかというのを常々考えながら、そういう問題に対処していかなければいけないのだなというのを、少し思ったということを意見として言いそびれていたのです。

○会長     ありがとうございます。環境問題というのは、さまざまな要因が複雑に関連し合っているということで、そういう表現もまとめの中に少しはあるのですが、わかりにくいかもわからないので、その辺の表現を考えて工夫したいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。そのほか、何かありますでしょうか。よろしいですか。そうしたらこれで、新たな環境問題の報告、これに対してこういう形で阿部市長に対して答申するということにいたします。

事務局から、今後の進め方について何かありましたらお願いいたします。

○環境政策課長     今いただきましたご意見等は、会長のほうとやりとりをさせていただきますけれども、お時間が許す限り、皆さんにも、一回、作成した資料を確認していただきたいと思いますので、そういった手順も踏まえた上で、次回、第5回の答申につなげたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長     ありがとうございます。それで、これで大体一通り重要なところの答申案、それから意見書案をいただいたのですが、この後、今日いただいたご意見も踏まえて、あとは個別にご意見をいただく場合もあるかと思うのですが、その取り扱いについて、座長である私と、それから事務局にご一任いただきまして、それをどう反映させるかということについては最終的には判断をさせていただいて、必要に応じて修正をしたいと考えております。

最終的には第5回、次の審議会の冒頭で委員の皆さんに決定をしていただきますけれども、そのときはほとんど時間がないので、ぜひご意見は、最終的にまとめる前に個別で結構ですので事務局のほうにいただければ、私と事務局で相談しまして必要な修正をしたいというふうに考えております。最終的には第5回、次の審議会で決定したものを市長に答申するということになると思いますが、その辺の細かいところは、私と事務局にご一任いただけることでよろしいでしょうか。確認をしておきたいと思いますが、よろしいですか。ありがとうございます。では、そのように進めさせていただきます。

最後になのですが、我々はこの政策方針Hというところを中心に議論してきましたのですが、この審議会は、必ずしも重点施策だけではなくて、それ以外の施策方針についても意見などを述べるようにできるようになっておりますので、ぜひこの場で、こういう点は重要だと思うのでということがありましたら、ここで、ご発言などをいただきたいと思います。よろしいのですが、何かありますでしょうか。

○H委員     よろしいですか。

○会長     どうぞ。

○H委員   ほかの施策方針ということではないのですが、やはりこの施策方針Hに関連してくることだと思うのですけれども、今までの議論は、そうしていただいてよろしいのですが、前回の審議会が行われた後、年末に新聞記事だったと思うのですが、切り抜いて手元にないのではっきり覚えていないのですが、東京都ですとか横浜市ですとかといった自治体で、2050年を目標に、二酸化炭素の排出をゼロにするという宣言をされた自治体が出てきていて、今はそれが、全国で20幾つの数にのぼるというふうな記事が出たかと思います。

まずそれをご確認、覚えておられたり、お手元に資料があればいただければと思うのですけれども。東京都や横浜市は、大きな二酸化炭素を排出する施設・工場ですとかをたくさん持っておりますし、交通量、排気ガスの発生も多い都市ですから、これはそれなりに大変だと思いますけれども、20幾つあった自治体の多くは、岩手県の田舎の小さな町であるとか、森林面積が多かったり、あるいはソーラー発電、風力発電などを行っているような自治体であるところが多かったように思います。横浜市が、自分のところが炭酸ガスを減らしていくという方策の1つとして出していたのは、そういった自治体とセットになって、グリーン電力を調達するということで、二酸化炭素をプラスマイナスゼロに近づけていこうという方策を打ち出したということが、1つあったかと思うのですけれども。東京都は東京都で、またいろいろ考え方があったかと。

それから、もう一つ関連するのですが、お正月になってから新聞に入ってきたチラシで、こういうチラシがあって、これは最初は電気会社のチラシかと思ったのですけれども、よく見ると東京都が出しているもので、電気代がお得になるチャンスと書いてあるのですけれども、要するに家庭の電力をグループ組みしてまとめていくことによって、グリーン電力の供給者に入札をさせて、安い電力価格を調達していくようにしていこうと。エコ的な進め方もできるし、家庭もコストが安くなる可能性がある。ケース・バイ・ケースで、全てが安くなると約束しているわけでは必ずしもないのですけれども、こういう取り組み方も1つの方法かなと。自治体に何ができるのだろうかということとは疑問だったのですけれども、東京都がこういう音頭とりをし始めているということも、1つのうれしい証拠というか、こういうやり方もあるのだなということもありました。

ただ、ネットを見ると、私も登録しようと思って、このチラシを見た直後にアクセスしてみたのですけれども、その時点でまだ2,400世帯ぐらいしか登録していないと。ところ

が昨日ぐらいに見ると、それが3,200世帯ぐらいにアップしているということで、少しずつ広がってきているのかなと思います。

ですから、1つは、多摩市さんにお尋ねしたいのは、多摩市も、以前にたしか電算センターなどがあって、二酸化炭素の排出が実質、多い実状にありますよというお話がありました。緑が多いとはいいいながら、では、その森林面積で二酸化炭素を吸収できるほどの緑があるかという、やや疑問かなと思うわけですが、多摩市さんとして今の二酸化炭素の排出というものは、プラスマイナスゼロに近づけていけるめどがあるのかなという疑問。それから、そういった各全国の自治体で二千何年度をめどにしてゼロにしていこうという宣言を出す動きが出てきていますけれども、多摩市さんでそういう意思というか、今後どのくらいにはそういった宣言を出していきたいなというふうなお気持ち、あるいは計画というものはおありになるのかどうかと。

それから、こういったような東京都でこういう取り組みを始めていますけれども、多摩市さんとして、例えば市民に向けてそういったグリーン電力共同購入みたいなことは、一例ですけれども、そういった市としてできるようなとりまとめのような工夫なりをこれからお考えということがあるのかどうか、この辺のことをお尋ねして、もし可能ならお答えいただければありがたいなと思っています。

○会長     ありがとうございます。包括的には、次期のみどりと環境基本計画の中でどう書き込むかということになると思うのですが、今の段階で何かありましたら。

○環境政策課長     まず1つ目のご質問の、二酸化炭素をゼロに近づけていける施策になっているのかということについては、今現状は、やはり新たな取り組みを進めていかないと。今、パリ協定の枠組みのもと、日本は26%。ただこれを、世界的に2050年に向けてゼロにしていくためには、やはり各国の努力というのは、まだまださらに上乗せしてやらないとだめだというのは、この間のCOPの中でも示されたところでございます。

日本は26%ということで目標を立てていますが、実質、民生部門、例えば我々市役所レベルとか、あとは家庭部門になると、実際は40%程度削減していかなければならないという事実もございます。それに向けて、今の省エネ・創エネだけで進めていけるのかというと、なかなかそれは、現実には難しいと思います。東京都もそのようなグループ購入だとか、国も少しずつ取り組みを始めているところですが、早急にやはり新しいアイデアの中で取り組みを進めていかなければならない。

多摩市はどうなのだとおっしゃるところなのですが、今、H委員からご指摘いただいた

2050年にCO2ゼロに向けた取り組み、こちらの資料を実は今、持っています。こちらは今、これは12月4日時点だと、およそ25の自治体、おそらく今はもう30ぐらいに増えているかと思います。横浜市の取り組み、東京都の取り組みも、市もそれは承知しております。この取り組みを進める意思はあるのかというところですけども、意思はあります。

ただ、これの意思を宣言しただけでは、前に進んでは行かない。意思をもし示したのであれば、それに対する具体的な取り組みを示していけないと意味がないと思うのですね。それを今、模索しているところです。何ができるのか。いろんな専門的な知識を持った方に、今、尋ねています。我々も勉強しています。そういった中で市民も含めて、市民も巻き込んだ形で二酸化炭素の削減、2050年に二酸化炭素実質ゼロに向けた取り組みは、いつか、いつかではないですね、もう直近のできるだけ早いうちに多摩市としても、それは宣言をしたいという考えはございますので、もうしばらくお待ちいただきたいというところです。具体的な取り組みについては、今、お示しできませんけれども、意思としては持っていますので、それで今はご理解いただきたいと思います。

○H委員     ありがとうございます。

○会長     一応、決意表明はしていただいたということです。そのほかは、いかがでしょうか。何か、東京都の情報をお持ちですか。

○K委員     済みません。建設の、公園をつくるところと、さっきのCO2のところは少し違うので、あまりないです。

○会長     わかりました。

○L委員     私のほうで少し。

都庁は、第一庁舎と第二庁舎が新宿に今はあるのですけれども、第一庁舎については、再生可能エネルギー由来の電力に切りかえたということで。ただ、全量ではないのですね。やはり非化石証書、証書で賄っている部分ともありますので、実際は、皆さんどこの自治体もゼロって目指すのですけれども、必ずゼロっていうわけにはいかなくて、どこかとトレードしてゼロに数字を近づけるということで考えていかないと、おそらくH委員がおっしゃっているように、ゼロで世の中は回っていかないので、それプラス、再生可能エネルギーをどれだけ入れて、ほかのところからそういうふうなキャップ&トレードのような形で、ゼロに近づけていくかということで、どこの自治体もやっていくと思いますので。

そのために、先ほどおっしゃったような家庭のやつもやっていますし、今、いわゆるゼロエミッション・ビークルという電気自動車だったり、FCVですね。そういったものを、も

っと普及させていくのだという取り組みもやっていますし、いろんな方向からやっていくのですけれども、でも、かなりハードルが高い数字だということは多分わかりながらも、どんだん今は中期計画をつくってもう公表していますから、それにのっとってやっていくのだろうとは思っています。私どものセンターでも、かなり助成金を家庭向けにも相当、今回も補正予算を組んでいただいて、蓄電池も相当補正で組んでいますので、防災対策とあわせてそういうことも進めていっているというのが、今の現状です。

○会長     ありがとうございます。何かそういう市民レベルでの取り組みだと、例えば、M委員は何かありませんか。アドバイスとかコメントとか。

○M委員     今すぐは出てこないのですけれど。

○会長     そうですか。ありがとうございます。貴重なご意見をありがとうございます。そのほか、よろしいでしょうか。

そうしたらこれで、本日の審議は終了ということにいたしまして、その他というところに移りたいと思います。それでは、事務局からお願いいたします。

○環境政策課長     では、その他のほうに移ります。まず最初に、環境部から本日お配りしております参考資料について、ご説明をさせていただきます。続いて、公園緑地課より、1件ご説明させていただきたい案件がございます。最後に、次回の日程等について、ご案内をさせていただきます。よろしいでしょうか。

○会長     お願いします。

○環境政策課長     ではまず、机上に配付いたしました、多摩エコ・フェスタ2020、こちらをご覧ください。こちらは環境問題、身近な生活にかかわるものから、地球規模のものまで幅広く、年々深刻化しております。このイベントは、そうした環境問題について市民に考えていただく一つのきっかけとして、提供している場となります。そういった催しとなります。こちらは、日時が令和2年1月18日土曜日と19日の日曜日、午前10時から午後5時というところで行わせていただきます。参加団体等によります展示・工作・発表のほか、多摩市のほうとしては、展示コーナーで環境部のパネル展示、それから「多摩市身のまわりの環境地図作品展」の受賞者インタビュー。あとは、まち美化。これも年間を通して貢献していただいた方に、毎年、表彰を行っております。そういった表彰式。

それから、今年については、パルテノンの大階段下で、電気自動車、燃料電池自動車の展示等も行う予定になっております。時間帯については、こちらの見開きの中に2日間の時間割表が入っておりますので、こちらをごらんください。毎年、楽しく環境を学ぼうということ



ところで、いろんな企画を用意しております。たくさんの市内の団体の方も参加しております。多摩市で、これだけ環境に興味を持っていろんな取り組みをしているということが、この会場に来ていただくととてもよくわかりますので、ぜひ、こちらのほうに来ていただいて。

それから、中でこの各団体とのつながりというものも、これからとても環境を進めていく中で大事なことになりますので、見ていただくだけではなくて、コミュニケーションをとっていただいて、楽しい2日間としてイベントを開催しておりますので、ぜひ、皆さんもお時間がありましたらお越しいただきますよう、よろしくお願いいたします。

環境政策課からの報告は以上です。

○会長　これは、今度の週末ですね。

○環境政策課長　はい。今度の週末です。この件で、ご質問はございますか。

○会長　一番下のところに、最後のページに参加団体というのがずらっとあります。一番最後に多摩市の環境部とあるのですが、ここが事務局をやっているのでしょうか。

○環境政策課長　実行委員会のほうで、事務局を行っております。

○会長　では、続いてどうぞ。

○公園緑地課長　それでは続きまして、公園緑地課のほうから1点ご説明をさせていただきたいと思います。今回は、みどりの保全確保の取り組みについて、ご報告させていただくものです。大変恐縮なのですが、本日は口頭のみ説明とさせていただきます。

今回、東京都の制度で、自然環境の保全地域制度という制度がございます。これは東京都の、「東京における自然の保護と回復に関する条例」というものがございまして、自然環境は一度破壊されてしまうと回復が難しく、また長い年月もかかってしまうということですから、良好な自然環境を保全地域として指定することで、その指定されたエリアの中で、例えば建築物ですとか、工作物をつくることを制限することで、自然環境を守っていくという制度がございます。

実は多摩市のほうでは、平成26年度にこの制度を活用いたしまして、連光寺・若葉台の地域について、こちらは現地の図面なのですが、ここにあるエリアの緑色で囲った部分と、それから赤色で囲った部分を、「連光寺・若葉台里山保全地域」として東京都の指定を受けました。これは緑色の中に灰色の部分がありますが、ここが湿地になっておりまして、この中に、キバサナギガイという陸に生息する貝類など、絶滅危惧種が生息していることが確認されておりまして、特にその部分の保全の必要性が高いといったところがございますので、平成26年度に、その部分を指定しました。あわせて、この赤い部分も指定を受け

ているのですが、ここは、稲城市の緑地になっておりまして、若葉台の地域ということで、連光寺・若葉台里山保全地域として、平成26年度に指定されたところでございます。

それをさらに青色で囲っておりますが、この青色の部分が、湿地に水を供給しているエリアというところで確認されております。今回、この湿地に水が供給されているエリアということで、この青色にかかる部分の必要な部分を、さらに追加で保全地域をかけていこうということで、今回は取り組みを進めていきたいと思っております。平成26年度に指定された特に湿地の部分ですね。ここに水が継続的に供給されていくことを守っていくためには、この青色のエリアをさらに保全地域に指定することで、建築物とかそういったものが建たないようにすることで、この貴重な自然環境を守っていききたいということで、今回、取り組んでいくものでございます。この保全地域の指定を受けますと、原則は東京都と多摩市で取得は行っていくのですが、取得後の管理は地元自治体、多摩市のほうで管理を行っていくというふうなことでございます。

この取り組みは、ここで始めさせていただいた段階でございまして、地権者との交渉などもありますので、本日は、資料は配付せずに口頭での説明とさせていただきます。今後、そういった地権者との交渉を進めまして、またあわせまして、土地の現状の自然状況の調査等も行いまして、東京都の自然環境保全審議会に諮問をさせていただいて、保全地域の指定の答申を受けまして、正式な指定を受けていくというふうな流れになります。今後も取り組みの状況に応じて、本審議会のほうに取り組み経過のほうをご報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いできればと思います。

説明は以上でございます。

○H委員　いいですか。

○会長　はい、どうぞ。

○H委員　マップで感覚を見たいのですが、尾根幹線はどこになりますか。

○公園緑地課長　尾根幹線は、その赤の下ですね。

○H委員　赤のさらに下？

○公園緑地課長　はい。

○H委員　わかりました。

○職務代理　今の地図の中で、緑色のところの面積は幾らですか。それから、ブルーで囲った面積が幾らになって、全体で幾らになるのか、教えてください。

○公園緑地課長　緑色の部分が、約1.6ヘクタールでございます。青色の部分の、青色

で囲った部分が、これは実はもう民家が建っている部分がございます、そこを除いた部分の農地だとか緑地になっている部分を今回は指定していこうと思っているのですが、その指定していこうと思っている部分が、約14ヘクタールということで、合わせて17ヘクタールほどになるというふうなところでございます。

○職務代理　ありがとうございます。そういうことですか。

○会長　今、ご説明ありました、キバサナギガイというのは、これはかなり貴重なものでして、どこにいるかっていうと、小笠原の南硫黄島と、あとはなぜか北海道のある地域なのです。学術的にはきわめて……、そもそもこんなところに何でいるのかっていう……。

○職務代理　何でいるのですか。

○会長　わかりません。わからないというか、調べればわかると思うのですが、遺伝子を調べないとわからないことです。かなり、ある意味で貴重な、学術的には極めて貴重な生物でして。

○公園緑地課長　済みません。14ヘクタールではなくて、1.4ヘクタールの間違いで、1.4と3.3で、4.7ヘクタールです。

○会長　4.7ヘクタール。そうですね。

○公園緑地課長　大変失礼しました。

ここを守っていくというのが重要なのですけれども、今回、この中の緑地の部分をさらに指定して、今後はそこを管理していくということも大きな課題になるのかなと思っておりまして、ただ放っとくだけでは草木が繁茂してというふうな状況になりますので、例えば、緑地の部分の中には、農地になっている部分もございます。そういったところを農地として活用していくとか、今後はその活用方針というのも詰めていかなければなりません。そのあたりのことも含めまして、今後は本審議会のほうでもご報告させていただくとともに、ご意見等をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長　ありがとうございます。まず、こういう場所……、何ていう地域に指定するのでしたっけ。

○公園緑地課長　これは、里山保全地域ですね。

○会長　里山保全に指定して、多摩市として東京都と連携して、そこをある意味、買い取るのですかね。

○公園緑地課長　買い取ることになります。

○会長　買い取って、そこを保全地域として管理・活用していこうという、そういう方針

だそうなのですが、それに対して、審議会としてはどうかということがあれば。基本は賛成するということだと思うのですが、何か積極的にご意見があったらいただきたいと思いますが。

○H委員　　今現在、生活廃水が流れ込んだりはしているのでしょうか。

○環境政策課長　　水質については、環境政策課のほうで所管しているのですが、生活廃水については、基本的には入っておりません。浄化槽の区域も、どことはこれは個人情報になりますから、ここではお伝えできないのですが、そういったものについては別のルートのほうで湿地のほうには来ていませんので、湿地のほうにそういったものが入り込んでいることはありません。

○会長　　J委員、何かありますか。

○J委員　　そうですね。里山という場所を保全していくということだと思うのですが、何かここは、特にキバサナギガイという希少な貝がいるということで、多分、それが今後もその場所で生息し続けられる環境を整えるという方針が一番重要になってくるような感じなのかと思うのですが、私は貝は専門ではなくてよくわからないのですが、通常は里山といいますと、やはり農業利用を行うことによって形成されたものということで、例えば、雑木林とかも定期的に伐採を行って若返らせながら、継続的にそういう場所が維持され、そういう雑木林が維持されとか、あと湿地のところは、たしかそこはもともとは田んぼ、水田として利用されていたところだと思うのですが、そうすると、キバサナギガイは、そういう環境の場合はどうなのかなというのが情報としてわからないので、水田を復元することが適切かどうかというのも、検討の余地があるのですが。

私は、その場所で活動されている市民団体の方と少しやりとりをしたことがあって、実際に現地にも行っているのですが、今の状況だと、湿地が徐々に乾燥化しつつあるような傾向があるというような話も伺っておりまして。そうするとやはり乾燥化に対してどう対応するかということで、今は買い取られて取水域を保全するという方向性としては、そのとおりにかなと思っているのですが、それを上回る勢いで例えば乾燥化するとかになると、またどうしていくといいのかなとか。いろいろと整理しなければいけない問題があると思いますので、何かそのあたりをどういうふうに解決するのかっていうのは、できればいろいろ専門の方のご意見とかも踏まえて、考えていただけるとありがたいなというふうに思います。

○会長　　ありがとうございます。審議会としては、やはり貴重な自然がある可能性が高い

ので、専門家の助言も受けつつ、適切に管理をしていってほしいということだろうと思います。

○公園緑地課長　これから、東京都のほうの審議会である自然環境保護審議会にかけていくという説明をさせていただいたのですけれども、その前段階で、ちょうど今入ったところなのですけれども、自然環境の調査を専門の方に入ってもらって、それをもとに保全計画書というものをこれからつくってまいりまして、それとあわせて審議会に諮問させていただいて、保全地域の指定を最終的に受けるという運びになっておりますので、まずはそこで専門家の意見を伺いながら、どう保全していくのかというのを組み立てていくのですけれども、その後も機会に応じて、適切な保全の仕方は追究していきたいと思っております。

○会長　ということだそうですので、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。そのほか、よろしいですか。ありがとうございました。

そのほかにご意見がなければ、日程について事務局からご説明があります。

○環境政策課長　では、説明をさせていただきます。次回、第5回目の審議会の日程につきましては、メール等でお知らせしていますとおり、2月13日木曜日の午前9時30分開始とさせていただきます。一部の委員の皆様につきましては、ご希望に沿うことのできない日程となり大変申しわけございません。また、ご出席いただける委員の皆様につきましては、公私ともご多忙の中、ご足労をおかけしますがよろしくお願いいたします。会場は今回と変わしまして、市役所第二庁舎1階にございます、第二庁舎会議室を予定しております。開催通知は後日、本日の議事録とあわせてお送りする予定ですので、よろしくお願いいたします。

また、今年度は地域基本計画につきましてもご審議いただきましたが、参考に来年度以降の審議会につきましても、簡単にご案内させていただきます。来年度の審議会からは、次期計画の策定に向けて本格的に動き出します。そのため審議会の皆様にも、例年の令和元年度における市の環境の取り組みに対する市民認証、いわゆる外部評価、これだけではなく、計画全体についてのご審議もお願いをさせていただく予定です。中間見直しを行った平成28年度に計画の全施策方針についてご審議いただきましたが、来年度についても、同じように全施策方針についてご審議いただくことを想定しており、審議会数は、今年度より1回多い6回を予定しております。また、計画案から策定へと進めていく再来年度の審議会につきましては、今年度より3回多い8回程度の開催を予定しております。

なお、本審議会は市民委員、学識経験者、事業者、市行政委員会の委員、環境の保全等に関する行政機関の職員により、17名以内の委員構成にすることとなっておりますが、現任

期が令和2年6月末までとなっております。来年度が委員改選の年に当たりますので、今年度のうちに、徐々に調整やお声がけをさせていただき、4月から5月に委嘱の依頼や、市民公募をさせていただきたいと考えております。来期の委員の皆様には、今年度よりご負担をおかけすることとなるかと思いますが、ご協力いただけますようでしたら、来年度以降も、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○会長      ありがとうございます。

それではこれもちまして、第4回の環境審議会を終了といたします。

皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

○環境政策課長      ありがとうございました。

午後3時20分閉会